

図7 震源分布の時系列 (2008年5月6日~8日)

この地域は、以前から地震活動が活発で、M7級の地震の発生が予測されていたため、海底地震計による繰り返し観測を行っていた。そのため今回の活動は、M7級の大地震に至るまでの前震活動および本震発生後の余震もすべて記録することができた。

今回の地震の直前には3月15日に群発活動があり、5月4日と5日にも小規模な活動があつて、7日午後から徐々に活発な地震活動になり8日1時2分にM6.4、1時16分にM6.3の地震が発生して、1時45分M7.0の地震発生に至った。

本震発生までの前震活動は小さな領域に集中していて、それが時間と共に移動し、範囲が拡大して、本震発生になった。その後の余震活動は、本震発生直前の地震活動があつた領域で活発である。

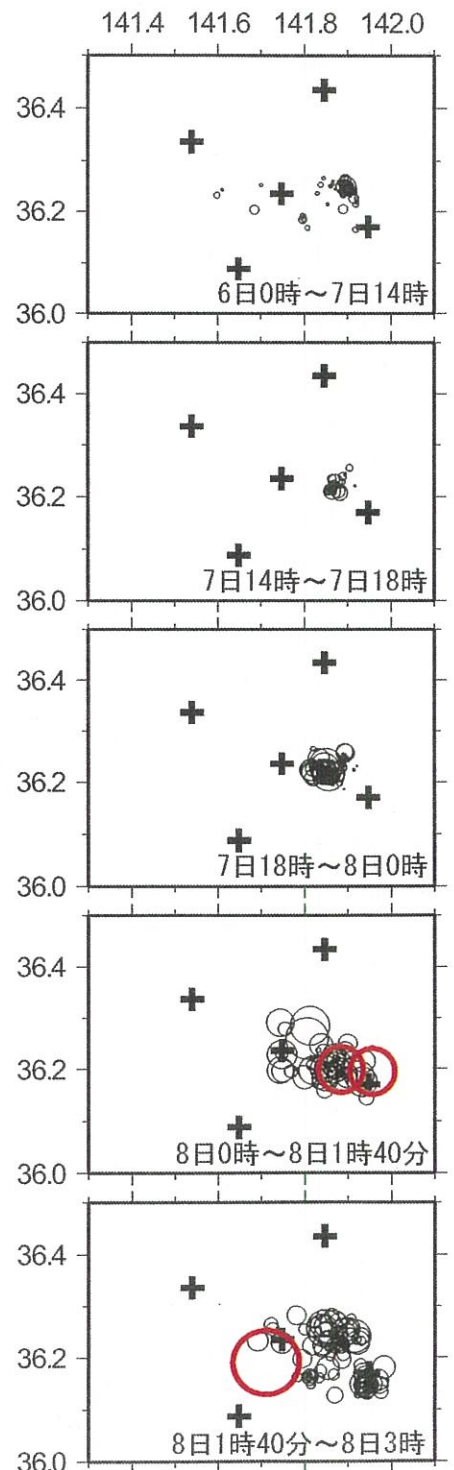


図8 震源分布の時間変化